おだい

「推しを5人!!」

亟

野人

IM-35A A4 35 made in JAPAN FOR THE BEST CREATIVE WORK YOU NEED THE BEST MATERIALS & EQUIPMENT. I·C INC.

1 安達蓮 2 片岡チル 3 トムいけい 4 佐藤はまり 5 ハヤト 6 王禹川
推しキャラ
この人だわ〜だ!!
みゆこ

お題「好きなキャラ
5人以上」

Tatumi

東方プロジェクト

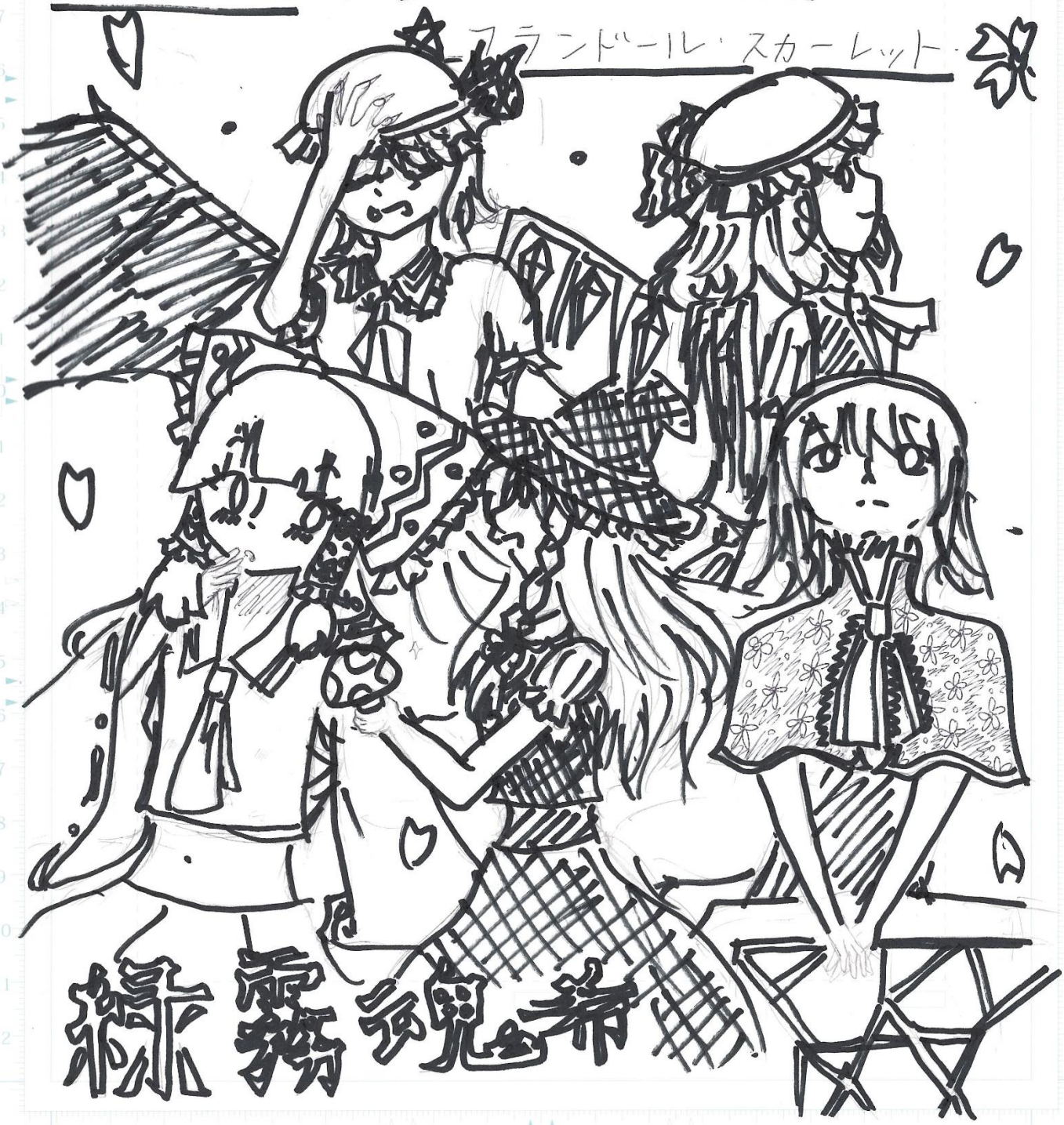
☆博麗霊夢

☆霧雨魔理沙

☆アリス・マーガトロイド

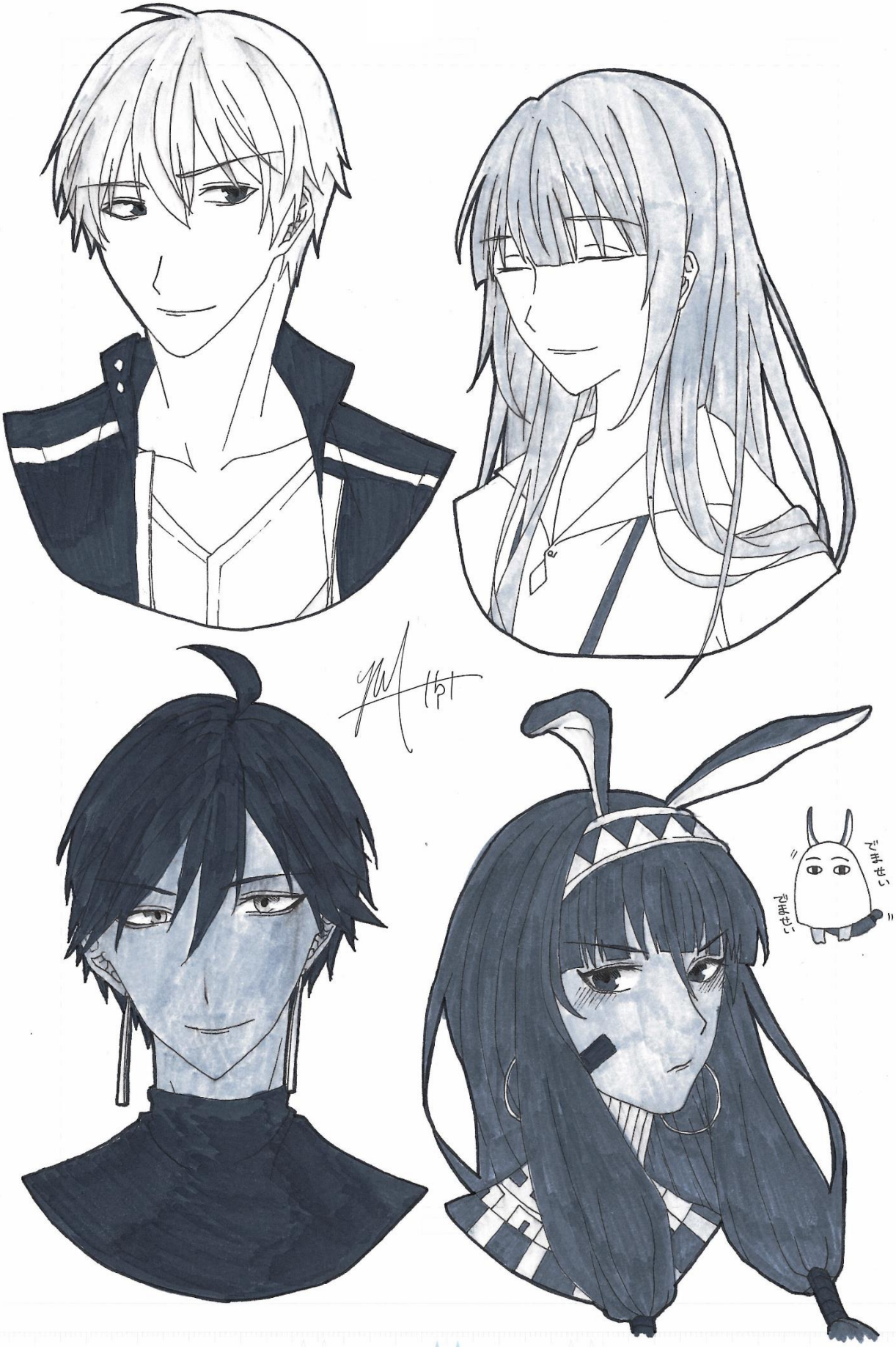
☆レミリア・スカーレット

☆フランドール・スカーレット



緑霧研究部

NAY002
タイトル 名前 ページ
JM-10A (110) made in JAPAN
FOR THE BEST CREATIVE WORK YOU NEED THE BEST MATERIALS & EQUIPMENT
I·C INC


ごめんなさい
ごめんなさい

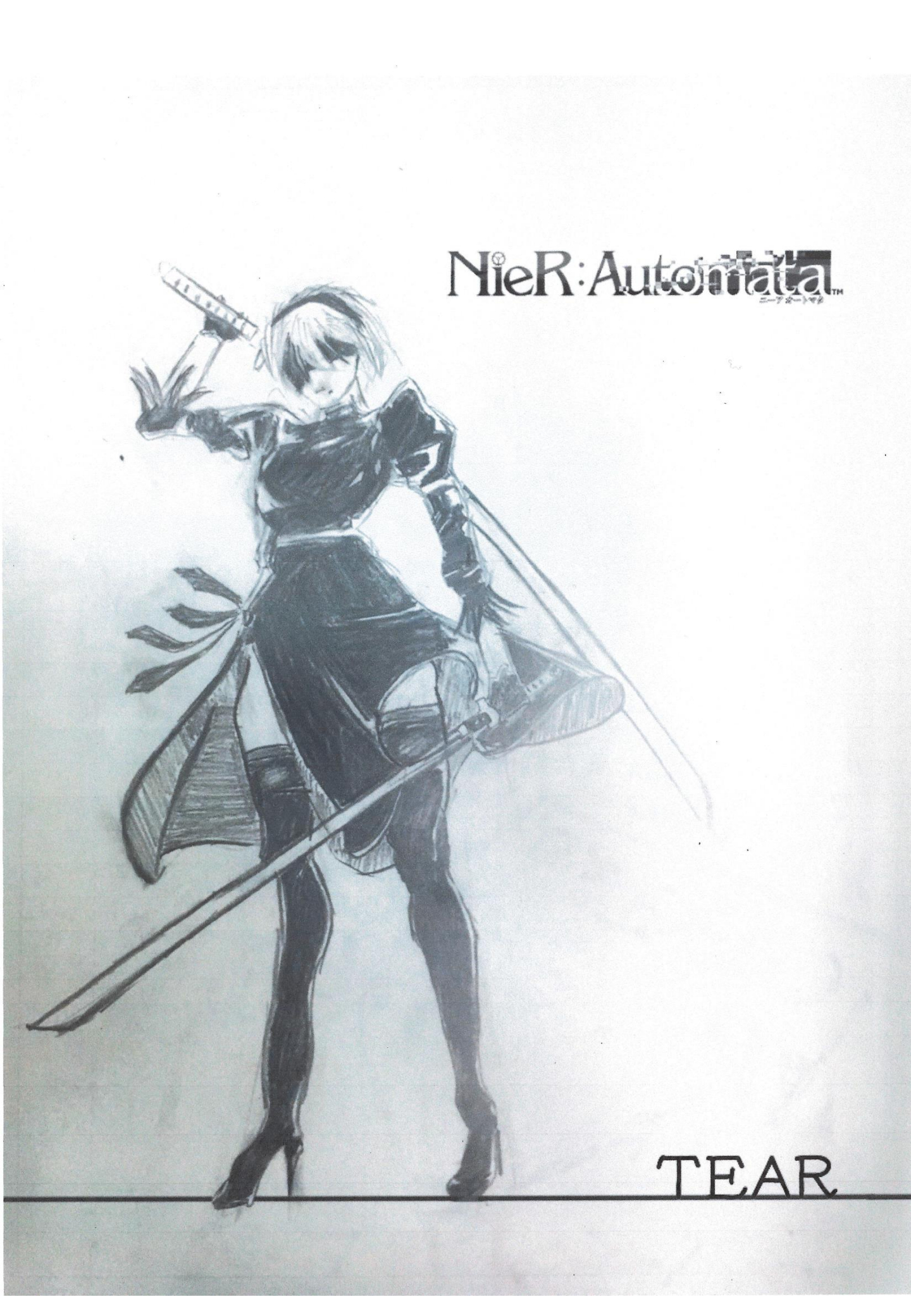
せやな

お題無視するん
2回目とちゃう??

てかA&Wって店の
ルートビア飲みに行きたい~

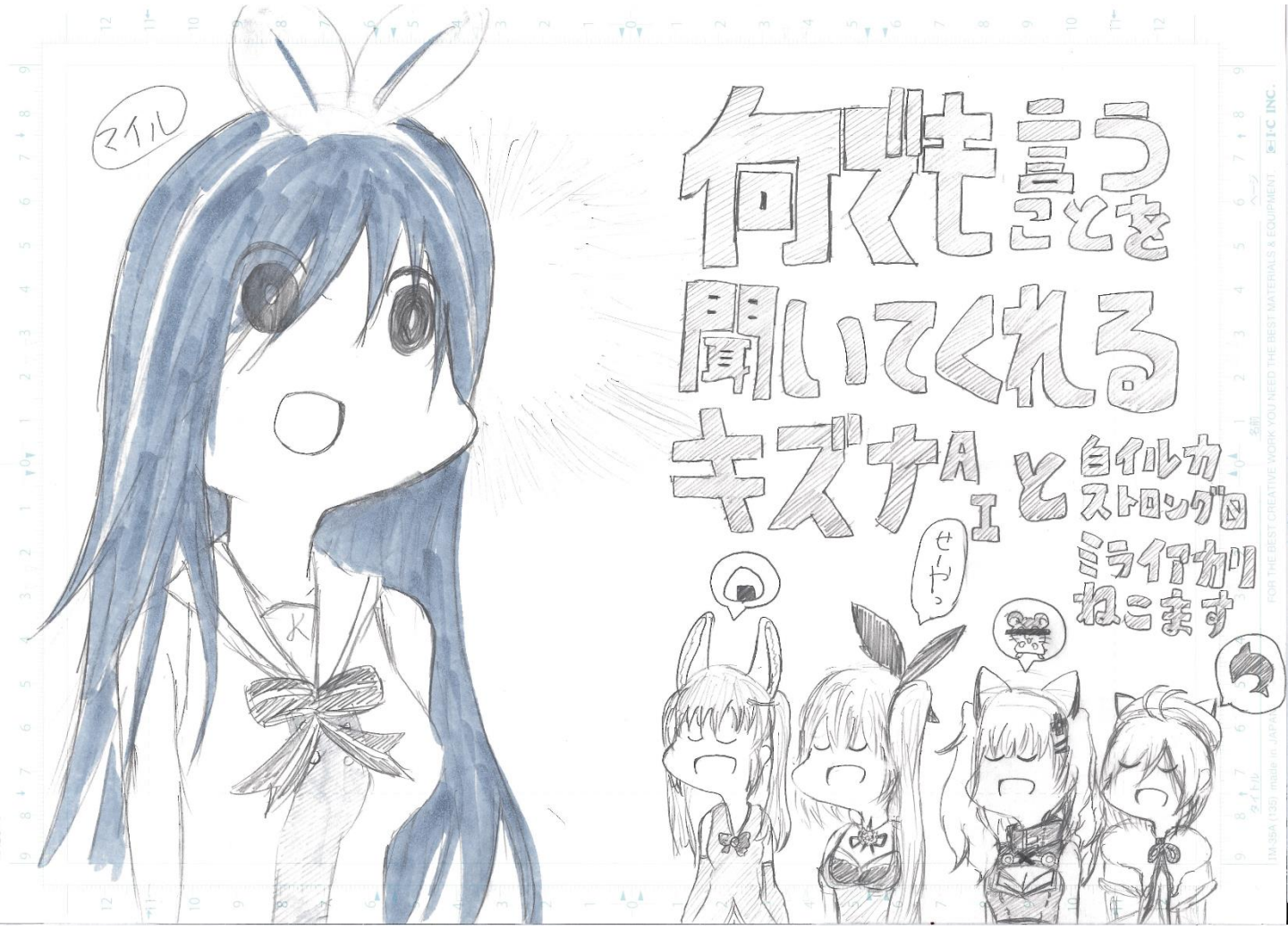
僕も有名な
神絵師になるんだ!!

さしす、さしす、
あれ?その次なんやっけ

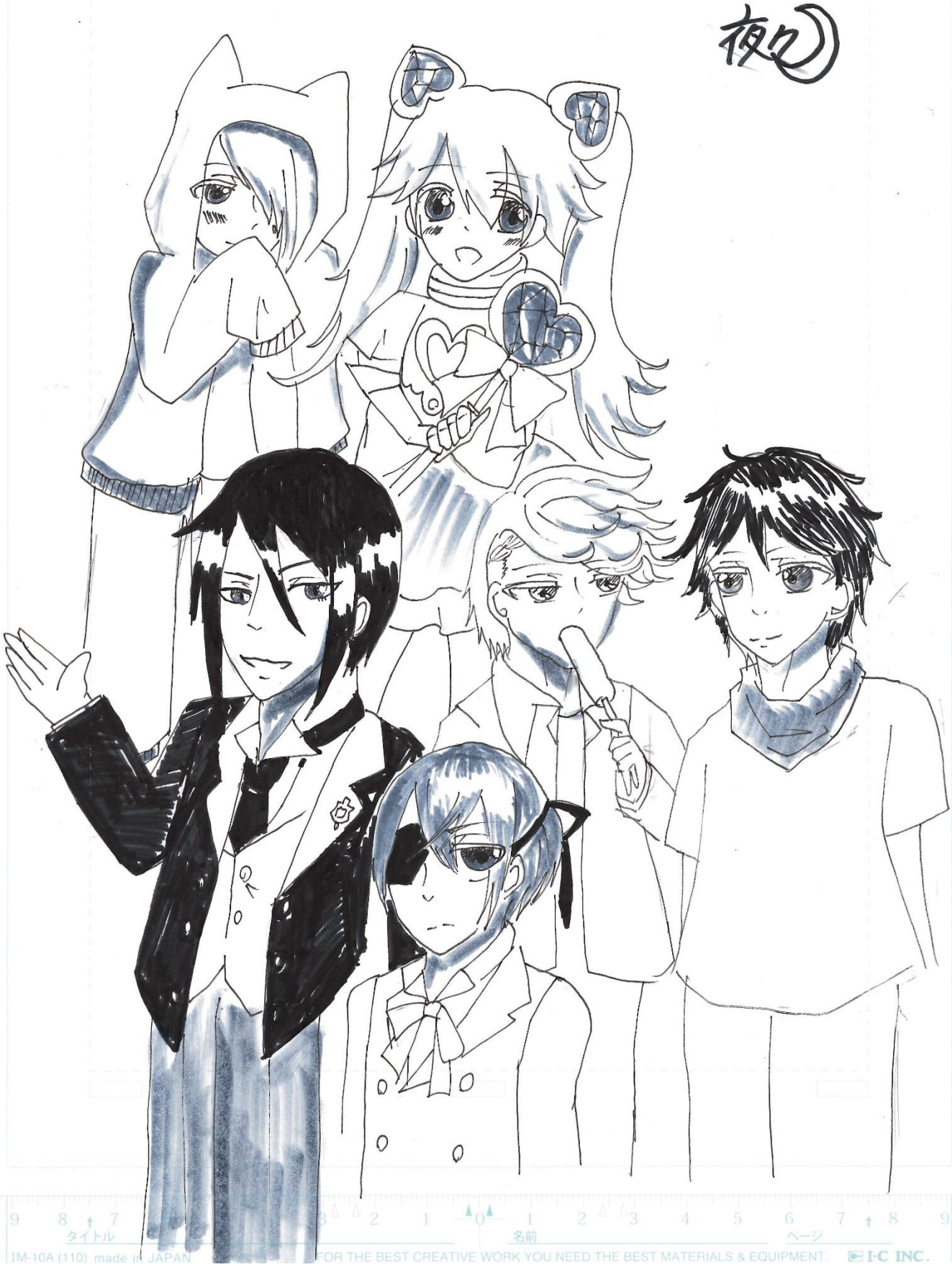

NieR:Automata™
TEAR

Fate/Apocrypha
Fate/Grand Order
フラグメンツ
クトゥルフ神話
グラニの黙示録
スクールアイドル☆星の少女
刀剣乱舞
お題
好きなキャラ
五人描く!!
新入生の皆さん、ご入学 おめでとうございます!!
今回のお題は上記の通り。ということで
作品名だけ載せ、名前は表記しないでみました。
「このキャラ知ってる!」というのもあれば「誰?」というのも
あるかと思います。よければ調べてみてください。
漫画研究部はサブカルチャー好きでもそうでなくても
いつでもWelcomeです。見学者(入部者)求む!!
P.N. 銘菓ひよこ

お題
「好きなキャラ5人描く!!」
ぬぎ餅
獄都事変
田口崇
黒バス
緑間
真太郎
山姥切
国広
刀剣乱舞
蜂須賀虎徹
ダンロン
七海千秋


マイル
何度も言うことを聞いてくれるキズナAIと
白イルカ
ストロング白
ミライアカリ
ねこます
セーフ

IM-35A (135) made in JAPAN
FOR THE BEST CREATIVE WORK YOU
I·C INC.



タイトル 名前 ページ
IM-10A (110) made in JAPAN FOR THE BEST CREATIVE WORK YOU NEED THE BEST MATERIALS & EQUIPMENT. I·C INC.

奏

前回のライブから二週間。殆ど通った事のない道を僕、天野悠は何度も疾走していた。
否、全然速くない。走り始めは疾走と呼べたかも知れないが、スタミナの無い僕に長い疾走など出来る筈ない。僕はまともに運動したことがないのだ。しかも時間がない。
後一時間で、ライブが始まる。
僕はもう一度、スマホで会場を調べながら疲れ切った足で走り出した。

～～～同時刻　視点「奏」

田舎から出てきて一年。
都会の高いビルの軍団にはさすがに慣れた。
初めて都会を知ったのは二年前。兄の通う大学の学園祭を見に来たのだ。田舎で育った私は、都会に一歩も出ることなく多くの自然と育った。そんな私にとって、あの学園祭は異世界と言わざる負えない程衝撃的なものだった。多くのオーディエンスの前で、生き生きと自分の世界を音に、詩に乗せて伝える。プロの音楽家に比べれば、拙いかもしれないが私に感動を与えるには十分な物だった。・・・その日、私は「TRIANGLE　DIVER」のファンになった。
今日は、「TRIANGLE　DIVER」改め「FREEDOM　DIVER」のライブがあるのだが会場がいつもと違う。今日の会場は・・・

ドンッ！

「「ワアッ！」」

妄想に集中しすぎて周囲への注意力が散漫になっていた私は誰かとぶつかってしまった。
相手は走っていたのか、かなりの勢いがあった。私はその勢いのままに倒されてしまう。

「ああっ！ごめんなさい・・・大丈夫ですか？」

聞き覚えのある声に、私はサッと顔を上げた。

「だ、大丈夫です。」

・・・そこには、「FREEDOM　DIVER」のボーカル悠が居た。

～～～　ライブ会場前　視点「悠」

ぶつかった女性に手を差し伸べる。女性は「ありがとうございます」と言いながら。僕の手を取り、ひょいと立ち上がった。ずいぶん身軽だ。

「こちらこそ、すいませんでした。」

女性の声はよく通りそうな綺麗な高音で、車の音にも負けずに僕の耳を正確にとらえる。きっと、この人の歌も綺麗なんだろうと勝手に思ってしまうのは僕がボーカルだからだろう。

「いえ。・・・ケガは無いですか？」

改めて相手の身体を気づかう。僕は走っていた上に相手は女性だ。あっさりとケガをしてしまうかもしれない。

「大丈夫ですよ。私、これでも体は頑丈な方なので。」

そう言って目が合った彼女は自分よりも若そうで、随分と整った顔立ちをしていた。パッと花が咲いたような明るい頬に、パチッとした目が印象的だろうか。このような表現だと化粧が濃いのかと思うかもしれないから言っておくが、彼女は殆ど化粧をしていない様だった。
そしてそれは、何処かで見たことのある顔はどこかで見た事があった。でも、どこで？

「あ、あの・・・私の顔に何か付いてます？」

「あっ、いえ！そ、そうだライブ会場・・・。」

あまりにも、的確な指摘に少し戸惑った。ここで自分の問題であるライブ会場の話を持ち出すあたりにコミュニケーション能力の低さが伺える。
ただ、今回はこの能力の低さが功を奏した。

「それって、ここのことですか？」

彼女が指さす先には、僕が走り回り探し続けたライブ会場があった。
大急ぎでライブ会場の裏口らしき場所に回り込み、コージに電話する。電話越しにバンドメンバー全員に遅刻の謝罪をし裏口から待合室に。すぐに直前のリハーサルに入った。

～～～ライブ会場　控室　ライブ終わり～～～

「悠さん、先行ってますよ？」

「おう。あとで行く」

その返事に、コージは居酒屋の名前のメモだけを残して会場を出ていく。
・・・今日のライブは良かった。盛り上がりもそうだし、何より演奏しているこっちも楽しかった。緊張して歌詞を間違えたり、少し詰まったりとヒヤヒヤした場面も多かったがそれを含めても成功と言えるだろう。もう一つ、僕が今日不安だったのは新曲の事だ。今回のライブはいつものライブよりも規模が大きかったため新曲を発表しよう！と言う事になった。まぁ、作詞作曲その他もろもろ僕が作ったんだけど・・・。とにかく、今回のライブでは新曲を発表した。名は「ウロノキ」。これがうけたのもかなり大きかったのではないだろうか。

・・・ああ、そういえばさっきぶつかった人の顔の見覚えがある理由が分かった。
ずっとライブを見に来てくれている謎の女の子である。なぜあの時すぐに思い出さなかったのだろうか。
そんな事を考えているうちに荷物をまとめ終わったので、僕も居酒屋に向けて歩き出すことにした。

作：シルマ

あとがき

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。シルマです。

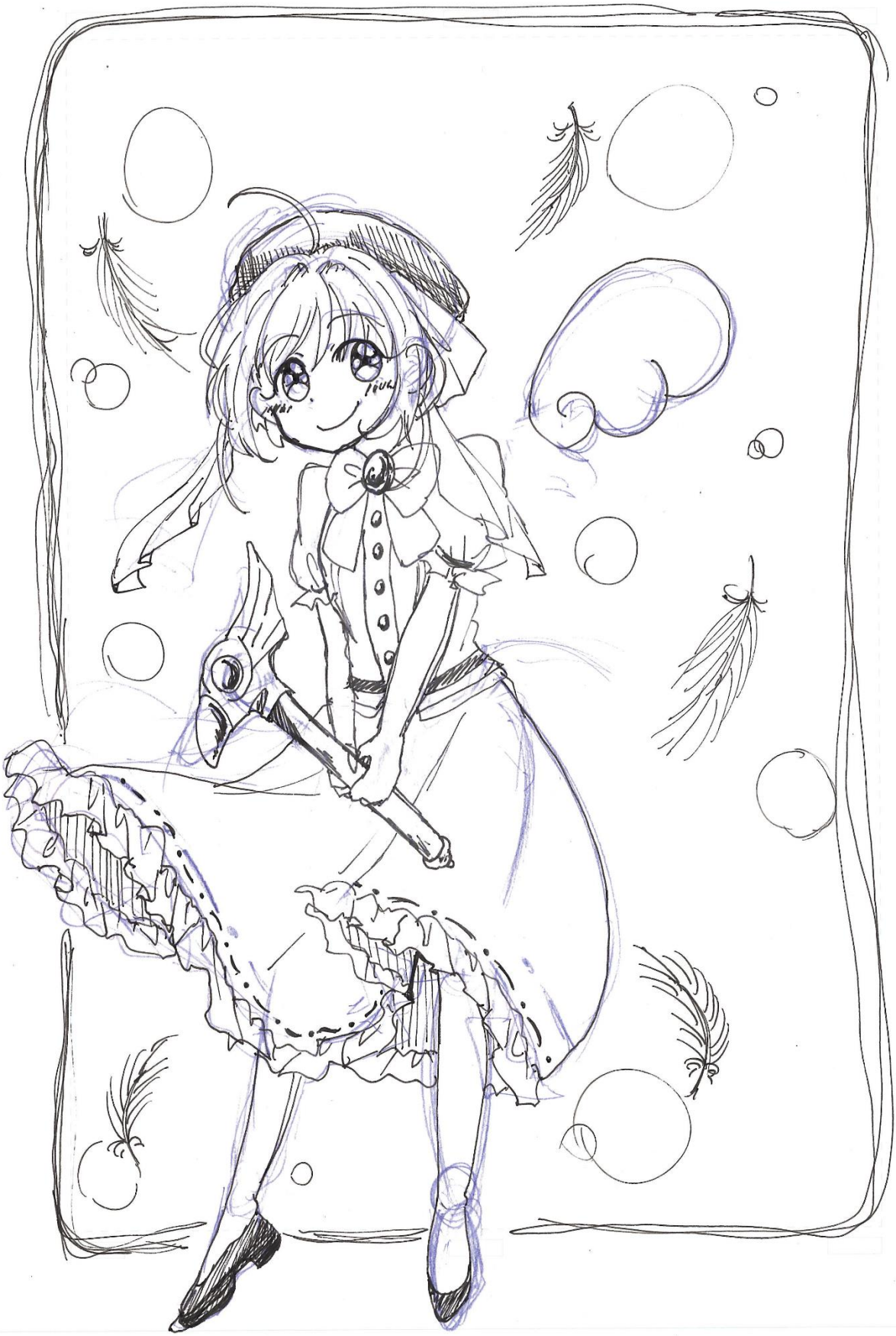
早速で申し訳ないんですが、漫研の部長たちに文句を言いたい。

なんであとがき書いたの俺だけなんだ？

ま自分から書いた物なのでそんなにガツガツと文句を言うつもりは無いんですが、あとがき誰も書いてないなら言えよ！と二か月前の自分は心の中で叫んでました。まぁ、「お題」に沿った部誌書けよと言われれば何も言えないのが現実なのですが・・・。

さて、漫研内の話はこれぐらいにして今回は作中のネーミングについて話させて貰おうかなと思っています。
自分が小説を書く上で一番困っているのが実はこのネーミングなんです。
理由は至極簡単でセンスがないから。
こればっかりはどれだけ書いても慣れないですね。
なのでこの連載には、他の小説やその他さまざまな物から名前を持ってきています。（気づいてる人も居ると思う・・・。）
例えば「悠」や「奏」「コージ」といった名前は出版されたものと同じ名前を使用しています。
また、「セイジ」は同じくノベライズ化された「インビジブル」の中に出来るバンドマン。
「FREEDOM　DIVER」に至っては、音ゲーの超難関曲を少し変えて使わせてもらっています。
今後も、ライブ会場の名前や新キャラの名前を考える際は引用すると思うのですが、どこから取って来るか悩み物です。
（幽玄ノ乱とか、風神ＲＵＮＢＵＬＬとか入れ出したらネタ切れだと勝手に判断してください。多分ないと思うけど・・・さすがに、〇〇２０００とかは使わない。）

まぁ、つまらない話を長々と書いてしまいましたが今後とも漫画研究部の部誌をよろしくお願いします。

ああ、そうそう興味がある人は漫研に来てください！

白蘭
ユグドラシル